

再生医療JAPAN2026ランチョンセミナーのお知らせ

開催日時・場所：2026年10月8日（木）11:30～12:30 パシフィコ横浜 アネックスホールF206

ダイダン

聴講登録は
こちら



無料

事前登録

iPS細胞を用いた神経再生

我々はiPS細胞から誘導した神経細胞の移植によって神経回路を再構築し神経機能を回復させることを目的として開発研究を進めている。主な対象疾患はパーキンソン病（PD）および脳梗塞である。PD治療に関しては、ドパミン神経細胞の大量誘導法とドパミン神経前駆細胞の選別法を確立した。iPS細胞由来のドパミン神経細胞は、PDモデルラットおよびサルにおいて腫瘍形成なく生着し、脳内でドパミンを産生して運動機能を改善させることが示された。これらの成果を基に、2018年より京都大学医学部附属病院において、ヒトiPS細胞由来ドパミン神経前駆細胞を用いたPD治療の治験を開始した。定位脳手術により両側被殻へドパミン神経前駆細胞を移植し、7例全例について2年間の観察を行った。本治験では、重篤な有害事象はなく、移植細胞によるドパミン産生および症状改善が確認された。この成果に基づいて住友ファーマ株式会社が薬事承認申請を行い、2026年3月に厚生労働省から条件期限付き承認を得ることができた。脳卒中治療に関しては、ヒトiPS細胞から大脳オルガノイドを誘導し、脳梗塞モデルマウスへの細胞移植で脊髄までの軸索伸長と運動機能改善を確認した。こちらも治験を目指して研究が続けている。本発表では、これらの成果を紹介し、神経疾患に対するiPS細胞治療の将来展望について論じる。



iPS細胞を用いた神経再生

高橋 淳
京都大学 iPS細胞研究所
臨床応用研究部門
教授

事前登録はこちら

（席に限りがございます。お早めにご登録ください。）

